

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2025/09/04

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	32.30	-0.06
JPY/THB	0.2180	-0.0001
USD/JPY	148.10	-0.26
EUR/THB	37.66	0.00
EUR/USD	1.1662	0.0022
USD/CNH	7.139	0.001
SGD/THB	25.08	-0.03
AUD/THB	21.13	0.03
USD/INR	88.07	-0.09
USD Index	98.14	-0.26

Bond

	Close	CHANGE
5Y (THB)	1.123	-0.004
10Y (THB)	1.263	-0.009
5Y (USD)	3.692	-0.029
10Y (USD)	4.217	-0.045

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	3,606.1	43.2
WTI (Oil)	63.97	-1.62
Copper	9,975.5	-5.0

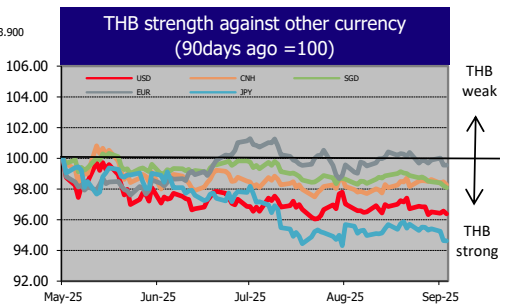
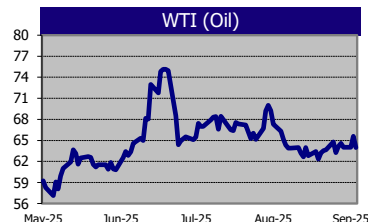
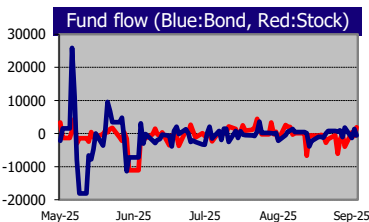
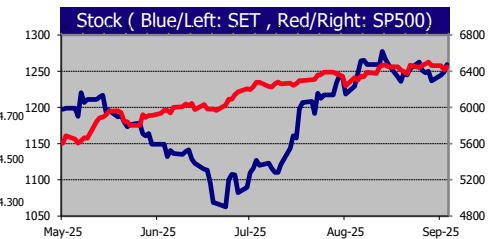
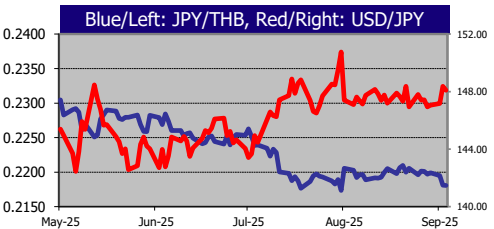
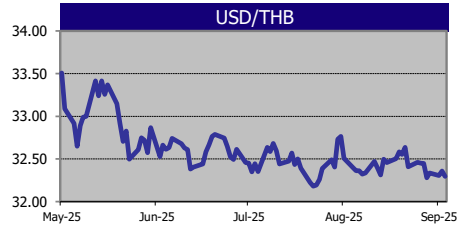
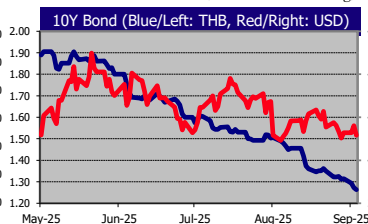
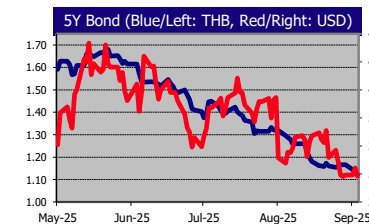
Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,259.31	10.53
NIKKEI (JP)	41,938.89	-371.60
DOW (US)	45,271.23	-24.58
S&P500 (US)	6,448.26	32.72
SHCOMP (CN)	3,813.56	-44.58
DAX(GER)	23,594.80	107.47

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	1,868	2620.1
Bond net flow	(586)	-1988.3

*compared with previous day
(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルパーツ

昨日のドルパーツは32.30パーツ台前半で取引を開始。前日海外時間の世界的な債券売り、それに伴うドル買いの余韻が残る中で、アジア通貨は全般的に対ドルで弱含む展開。加えてタイにおいては、午前中、タイ最大政党の国民党が次期首相候補のタイ誇り党・アヌティン党首の支持を表明する一方で、現在暫定首相を務めるプムタム氏が議会解散に向けて動いているとの報道が確認される等、政局不安が高まる中でパーツ売りが加速。ドルパーツは一時32.40台半ばまで上昇した。その後32.40パーツ台のレンジで推移し欧州時間に入ると、昨日に続き、英超長期債金利の高騰でドル買い優勢の展開に。しかし、英金利上昇が一服し債券が対ドルで買い戻される流れでドルパーツも32.30パーツ台後半まで押されNY時間オープンを迎える。午前中に発表された米7月JOLT求人件数が予想を下回った事を受け、次回FOMCでの利下げ観測が一段と強まり、32.20パーツ台後半までの上値の重い推移が続き、そのまゝの水準でクローズ。

●ドル円その他

昨日のドル円は148円台後半で取引開始。前日からの自民党四役辞意表明による日本の政局不安定化懸念により円売りの展開。その後は日銀植田総裁と石破総理の会談後、利上げへの距離が遠のいていない報道が出たことから円の買い戻しが入り、結局オープンと同水準で欧州時間に入った。昨日に続き、ドルが対ポンドで強く149円台前半まで上昇するも、英金利上昇が一服し債券が対ドルで買い戻される流れでドル円も148円台前半まで押され、NYオープンを迎える。午前中に発表された米7月JOLT求人件数の結果を受けドルが売られ、ドルパーツは148円付近まで下落。午後は米金利が低水準で推移する展開が重しとなり、147円台後半までの上値の重い推移が続き、その後148円台前半でクローズ。

Bangkok Dealer's Eye

今週は、昨日こそ巻き戻しの動きが見られたものの、総じて米金利上昇を背景にドル買い優勢の流れ。円もパーツも、対ドルで弱含んでいたが、2つを比べると円の弱さが目立つ。日銀の氷見野副総裁の講演が利上げに対する慎重姿勢を浮き彫りにしたことや、政治面で自民党幹部が揃って辞意を表明したことなどが足元の円資産売りの背景だ。政治情勢でいえば、タイも相当に不安定な状況にあるが、毎度のことながらパーツ売りが加速する展開にはなっていない。この点、週次で発表される外貨準備高を見ると、タイでは外貨準備が2024年初からほぼ一辺倒で膨れ上がっており、直近8月22日時点のデータでは過去最高額を更新していた。これは、外貨準備の構成要素である金価格が高騰を続けていることも関係しているかもしれないが、もう一つの理由として、中銀がパーツ売りの為替介入を継続実施していることも示唆される。つまりは、中銀の介入なかりせばパーツは今よりもパーツ高で推移していたと言えるので、米関税問題、カンボジアとの国境問題、中国人観光客の落ち込み、そして政治の停滞と、後ろ向きな話題が多い割にパーツは異様なほど堅調だ。これが米関税発動を前にした駆け込み輸出増によるパーツ買いフローなどが背景だったとしたら、その持続性には疑問も残る。いずれパーツの潮目が変わるシナリオも頭に入れつつ、混沌とするタイの政治問題の行方に注目していきたい。(吉田)

The report is prepared for the sole purpose of information only. It is not an invitation to trade. The writer's view expressed herein would not be substituted for the exercise of rational judgement by the recipients.